



国内IT事業

国内子会社におけるシステム構築サービス、システム運用管理サービス、人事BPOサービスなどの提供

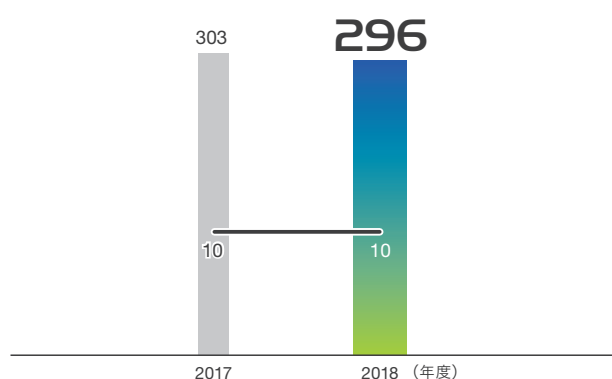


主な関係会社

(株)シーエーシー／(株)アークシステム／(株)シーエーシーナレッジ／(株)CACオルビス／(株)CACマルハニチロシステムズ／(株)きざしカンパニー／シーイーエヌソリューションズ(株)

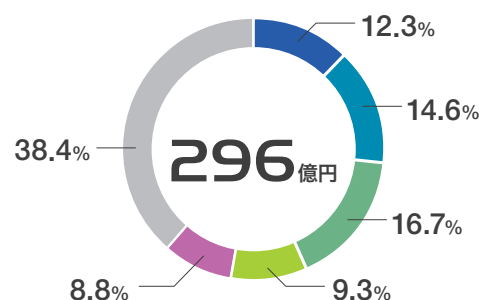
売上高と営業利益

■ 売上高 ■ 営業利益 (億円)



業種別売上高構成比

■ 金融 ■ 信託 ■ 医薬 ■ 食品 ■ 製造 ■ サービス他



業績について

2018年12月期の国内IT事業の売上高は、一部主要顧客向けで大幅な減収があったものの、全体としては前年度並みに推移し、296億23百万円となりました。業種別に見ると、サービスが約40%を占め、続いて、金融・信託が約30%、医薬が約15%を占めています。国内ITは創業時からのビジネスのため、四半世紀以上の取引を継続している顧客からの売上が多くを占めています。

営業利益は前期並みの10億41百万円となりました。

2019年12月期は、新たなデジタル技術習得し、それを活用したサービスの提供により、既存顧客のみならず、新規顧客からの受注機会を増加させ、あわせて利益率の向上を図ります。

中期経営戦略

国内外の新しい技術を取り込み、デジタルビジネスを活用したサービスへの転換を図ることで、受注機会の増加と利益率向上を目指します。

また、同一顧客や類似サービスについての戦略や体制をグループ会社間で統一することにより、機動的で柔軟なサービスの提供に取り組めます。

強みと特長

プライムコントラクターとして最適化したサービスを提供

プライムコントラクター(元請)としてお客様のニーズを直接汲み取り、お客様の業種に向けて最適化したITサービスを提供していることが特徴です。様々な業種の大手企業を主要なお客様とし、約半世紀の長い間、ビジネスを継続しています。中でも、金融(銀行や信託銀行)や医薬の分野で多くの実績があります。

デジタルビジネスへのシフト

AIやIoTなどの新しい技術が社会を変革する「デジタルトランスフォーメーション(DX)」。お客様のデジタルトランスフォーメーションを強力に支援するため、デジタルビジネスへのシフトを進めています。AIやクラウド、金融関係の取引には欠かせない技術であるブロックチェーンなど、技術動向を常に先読みし、注力していくことで、他社との差別化を図ります。

RPAサービスの推進

事務作業などの定型業務や繰り返し行われる業務を効率化、自動化する仕組みであるRPA(Robotic Process Automation)の導入サービスを積極展開しています。

昨今、RPAは働き方改革やワークライフバランス適正化のほか、人手不足対策としても注目されています。当社グループでは複数のRPAツールを活用し、顧客のニーズに応じた導入を行うだけでなく、導入効果を最大化させるために必要な導入後の運用や適用範囲の拡大なども見込んだRPA導入サービスを提供しています。既に金融機関での決済業務のほか、製造業における各種データ作成や発注システムへの入力、サービス業での経費決済業務など業種を問わず、多くのお客様にご利用いただいています。

サービスメニュー

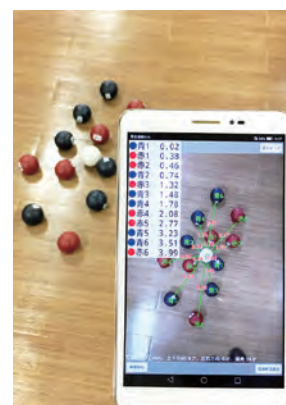


事業を通じた社会貢献

障害者スポーツ「ボッチャ」の審判支援アプリケーションの開発・配信

CACグループは社会貢献活動として、障害者スポーツ「ボッチャ」の支援活動に取り組んでおり、その取り組みの一つとして、Android™アプリ「ボッチャメジャー」を開発、配信しています。

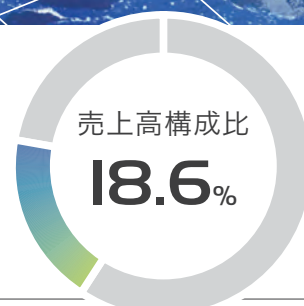
ボッチャは、的玉となる白いボール(ジャックボール)に、いかに多く自分のボール(赤もしくは青のカラーボール)を近づけられるかを競うスポーツで、ジャックボールからの距離を測定する審判の負荷や測定にかかる時間が課題となっています。ボッチャメジャーは、画像処理技術を活用したアプリケーションで、スマートフォンやタブレットのカメラ機能を使用して測定したいエリアを真上から撮影すると、ジャックボールとカラーボールとの距離を数秒で自動測定し、勝敗の判定を補助します。ボール間の距離測定にあたっては、Deep Learning(深層学習)を導入することで測定精度を高めており、20カ国以上、1,500ユーザー以上にダウンロードいただいています。





海外IT事業

海外子会社におけるシステム構築サービス、システム運用管理サービス、保守サービスなどの提供

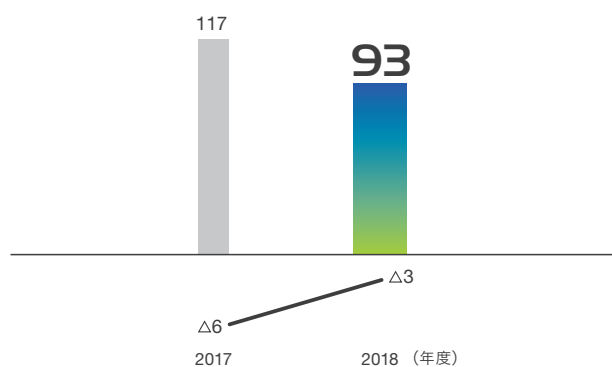


主な関係会社

CAC AMERICA CORPORATION／CAC EUROPE LIMITED／希垂思(上海)信息技术有限公司／CAC India Private Limited／Inspirisys Solutions Limited

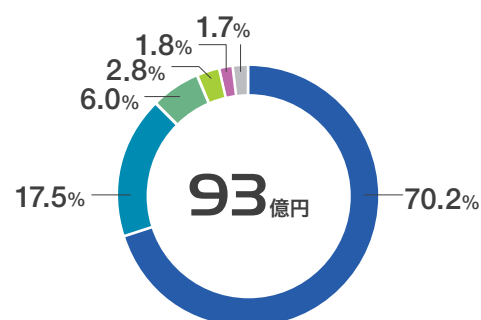
売上高と営業利益

■ 売上高 ■ 営業利益 (億円)



国別売上高構成比

■ インド ■ アメリカ ■ 中国 ■ アラブ首長国連邦
■ イギリス ■ その他



業績について

海外IT事業では、不採算事業の整理および事業領域の選択と集中を目的に、子会社など2社を2017年12月期に異動（譲渡）し、連結対象会社から除外しています。2018年12月期は、この影響に加えてインド子会社とアメリカ子会社の減収等により、売上高は前期比21.0%減の92億80百万円となりました。

国別売上高を見ると、インドが約70%を占め、続いてアメリカ合衆国（約18%）、中国（約6%）、アラブ首長国連邦（約3%、主にインド子会社Inspirisys Solutions Limitedの子会社の売上）、イギリス（約2%）となっています。

営業利益は子会社の異動等により、前期よりも改善したものの、3億800万円の損失となりました。

2019年12月期は、低採算ビジネスの立て直しを図ると同時に、現地需要の獲得などを推進することで業績への更なる貢献を目指しています。

中期経営戦略

海外IT事業では、大きなIT需要があり、今後も成長が見込まれる中国およびインドに注力します。

中国では、デジタルビジネスの営業力を高め、サービスメニューの多様化により現地需要の獲得を図ると同時に、有望なスタートアップへの投資に取り組みます。

インドでは、既存のビジネスを見直し、ICT事業をさらに特化させると同時に、不採算事業の切り離し、低採算事業の立て直しなど、事業再編を図り、ビジネスの安定と拡大を図ります。

強みと特長

成長分野として注力

顧客企業の海外進出に合わせて1980年代から欧米に現地法人を設立し、日系金融機関を中心に顧客企業のシステムサポートを行ってきました。2000年以降はアジア各国での成長を見込み、中国やインド等のIT企業のM&Aにより、海外事業を拡大しています。

現在は、インド、中国、アメリカ、イギリス等でサービスを展開しており、海外IT事業は当社グループの売上高全体の約20%、従業員は約6割を占めており、CACグループの事業の柱の一つとなっています。今後も、主にインド、中国において現地のIT需要を捉え、事業成長を目指します。また、必要に応じてM&Aなども実行し、さらなる成長を目指します。

デジタルビジネスの推進

インド子会社は、成長分野である先進運転支援システム(ADAS)の関連技術を有しており、シーエーシーと共同で日本市場開拓に取り組んでいます。

また、中国子会社では、感情認識AIのAffectivaを活用したビジネスに取り組んでいます。画像や動画から人の表情を解析、数値化する感情認識AIの特徴から、教育機関における受講生の理解度の測定や、公共機関での不審者解析など様々な場所で活用されています。

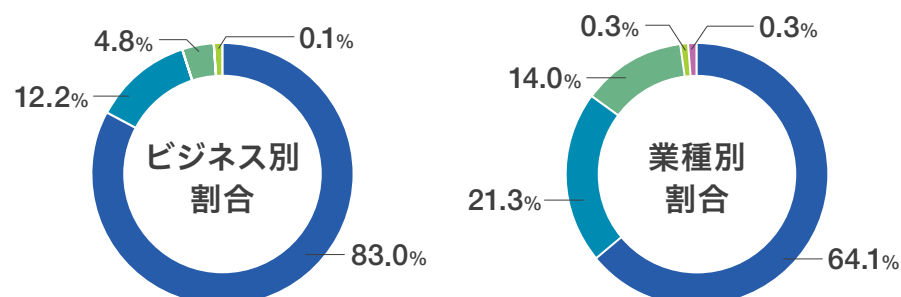
インド子会社Inspirisys Solutions Limitedとは？

海外IT事業の中核を占めるインド子会社のInspirisys Solutions Limitedは、インド第4の都市であるチェンナイに本社を構え、インド国内や、アラブ首長国連邦、アメリカ合衆国、日本などに計6社を子会社を持つグループ企業です。インドの証券取引所(Bombay Stock Exchange Ltd.およびNational Stock Exchange of India Ltd.)に上場している企業でもあります。

売上の約8割を占めるのが、ハードウェア(HW)販売・導入・運用保守サービスで、そのほか、システム構築や製品の保証サービスなども行っています。業種別に見ると、情報・通信業向けを中心とするサービスが過半を占め、続いて銀行向けなどの金融で20%、製造向けで約14%となっています。

昨今は、ハードウェア中心のビジネスモデルから、セキュリティ、モビリティ、クラウド、プロダクトエンジニアリング、IoTなどの高収益ビジネスへの転換を図っています。

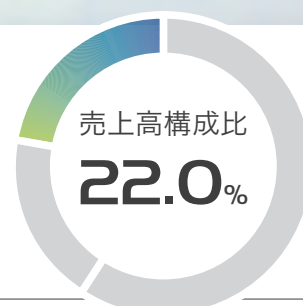
■ HW販売・HW導入・運用保守 ■ システム構築 ■ サービス他 ■ 金融 ■ 製造 ■ 医薬 ■ 食品
■ 製品保証サービス ■ その他





CRO事業

製薬企業が医薬品開発時に行う治験業務（臨床開発）や
製造販売後の業務の受託・代行サービスの提供

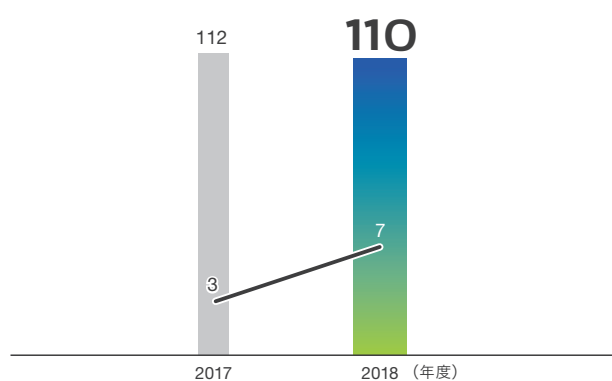


主な関係会社

(株)CACクロア

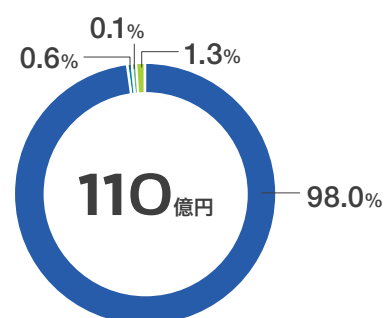
売上高と営業利益

■ 売上高 ■ 営業利益（億円）



業種別売上高構成比

■ 医薬 ■ 食品 ■ 製造 ■ サービス他



業績について

2018年12月期のCRO事業では、低採算案件の解消やコスト適正化等、収益力改善に向けた取り組みが進みました。

売上高はわずかながら減収となり110億2百万円となりました。業種別に見ると、主要顧客である製薬業が9割以上を占めますが、大学や研究施設等の機関、食品会社などとも取引があります。

営業利益では上記の取り組みが奏功し、大幅増加となる6億93百万(前期比150.3%増)となりました。2019年12月期は、受注力強化による案件獲得と、AIやRPAの継続活用による生産性向上に取り組めます。

中期経営戦略

製薬会社を取り巻く環境の変化に伴い、アウトソーサーであるCRO事業が拡大する中、その事業推進のツールとしてデジタル技術が活用されています。当社グループのCRO事業でもAI、RPAなどのデジタルテクノロジーを継続的に活用し、生産性とサービス品質の向上に努めます。

また、営業体制やビジネスプロセスの見直しにより受注拡大を図ると同時に、化合物共有ライブラリー事業など、周辺事業の推進、新事業創出により安定収益の確保や事業の成長を目指します。

強みと特長

CROとITを組み合わせたサービスに強み

当社グループのCRO事業は、ITサービスの提供を中心とした製薬企業との長いビジネスの中で、医薬品開発のために行う治験(臨床開発)にまつわる業務の一部受託・代行をしたことから始まりました。そのため、特にITを活用してCRO業務を効率的に提供できることが強みです。医薬品の副作用情報を収集、分析、評価する安全性情報管理業務や、薬事承認取得に必要な申請に関わる業務の実績は国内随一と自負しています。

生産性向上と周辺ビジネスへの拡大

IT企業を起源とするCROであることから、AIやRPAなどの利活用による生産性の向上に加え、昨今注目されている医療ビッグデータなどのリアルワールドデータへのビジネス展開を積極的に進めています。また、化合物共有ライブラリー事業など、周辺事業の拡大にも取り組んでいます。

CROとは



CROとは製薬企業が医薬品開発時に行う治験業務(臨床開発)や製造販売後調査における様々な業務を受託・代行する事業です。CACクロアは「安全性情報管理」「データマネジメント」「統計解析」などをはじめ、全てのCROソリューションを提供しています。

製薬会社のパートナーとして、人々の健康の維持、管理、増進に貢献

CRO事業では、製薬会社のパートナーとして、人々の健康の維持、管理、増進に貢献しています。

現在取り組んでいる化合物共有ライブラリー事業は、製薬会社が個別に保有・保管している化合物(医薬品探索研究用化合物)をCACクロアが提供する設備およびプラットフォームで集約管理するサービスです。このサービスでは、集約された化合物ライブラリーを共有ライブラリーとして製薬会社やアカデミア、バイオベンチャーに向け、広く利用を促進します。

高額な機器やコストを伴う化合物ライブラリー管理業務の提供は、創薬事業の促進に大きく寄与するとともに、産産連携や産学官連携も実現します。ひいては国内の創薬体制が強化され、日本発の革新的な医薬品が提供されることを目指し、当事業を推進しています。